

YOKOHAMA JUNKY

ADULT ONLY



七龍生  
ペアハンターの Vol.2-2





思い出せない



私はどうしてここに倒れているの？



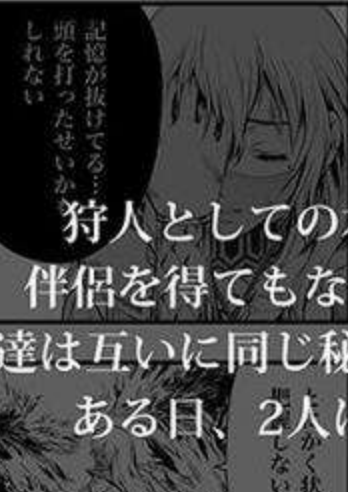
あはっ



ママ 行ってらっしゃい

ママが居ないからって イタズラばかりしちやダメよ ちゃんとパパの言うこと聞きなさいね

はい



記憶が抜ける！ 頭を打ったせいかもしれない

前回までのあらすじ

狩人としての本能は彼女達を戦いへと駆り立てる 伴侶を得てもなお狩人で在り続けようとする2人の女 彼女達は互いに同じ秘密を共有する仲間として絆を深めていった ある日、2人はいつものように狩りに出かけ……

目覚めた時彼女は何も覚えてはいなかった 相棒の黒髪の女は見当たらず、自身の体は酷く傷ついていた 状況を知るために辺りを見渡すが、そこは広大なジャギィ達の巣だった ジャギィの尿を体に塗り込み、巣からの脱出を試みる女ハンター 嗅覚で仲間を判別するジャギィ達は彼女を襲うことはなかった ハンターとしての知恵は彼女を救うかに見えたが 彼女には大きな誤算があった 体に塗り込んだ尿は発情期の牝の尿だったのだ 匂いを嗅ぎつけたドスジャギィは群れのボスの特権として牝を犯した 抵抗すれば仲間でない事がバレてしまう、彼女に選択の余地は無かった 荒々しい獣の性交は成熟した女の肉体に牝の悦びを思い出させる 久しく感じていなかった本物の女の快楽は彼女の精神を蝕んでいく 昼夜問わず犯し抜かれる体と心 獣の快楽は麻薬のように彼女を支配していく



の研究ですか？ それを取る事はない

ほこ

彼女には大きな誤算があった

体に塗り込んだ尿は発情期の牝の尿だったのだ

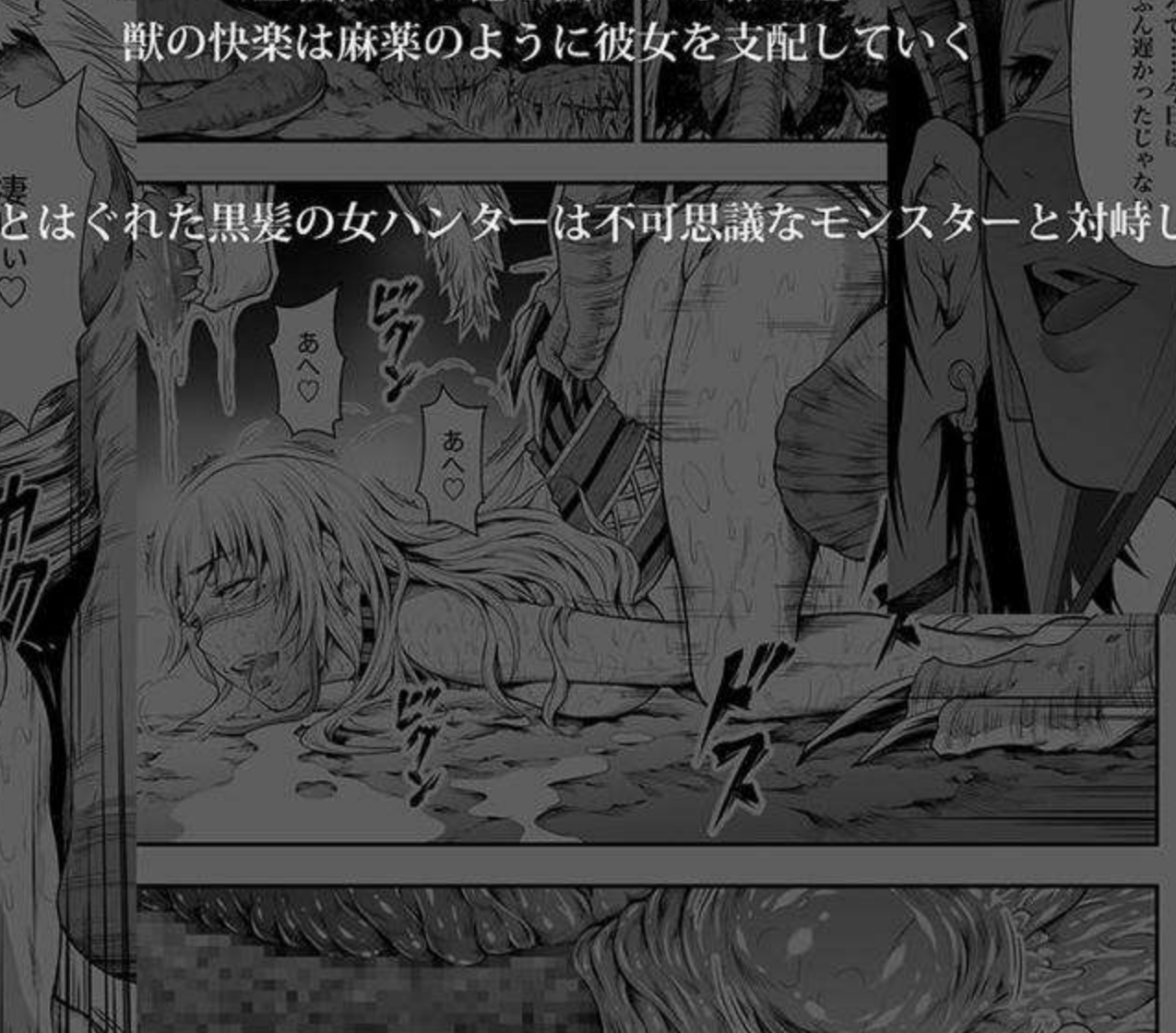
匂いを嗅ぎつけたドスジャギィは群れのボスの特権として牝を犯した 抵抗すれば仲間でない事がバレてしまう、彼女に選択の余地は無かった 荒々しい獣の性交は成熟した女の肉体に牝の悦びを思い出させる 久しく感じていなかった本物の女の快楽は彼女の精神を蝕んでいく 昼夜問わず犯し抜かれる体と心 獣の快楽は麻薬のように彼女を支配していく



ハハッ♡

凄いの♡ 事のお♡

ハハッ♡



あへ♡

あへ♡




ところで……今日は ずいぶん遅かったじゃないか


ダメよ そんな考え方じゃ 良いハンターにはなれないわ あなた身体能力は高いのに スター級の知識はからつきし なんだから



ハハッ♡



子供の頃から身体能力には自信があった  
かけっこも木登りも自分より大きな  
男の子達に負けたことが無い



ハンターになってからもそうだ  
見たことの無い巨大なモンスターが相手でも  
体がすぐに順応する  
肉体の動くままに従えば必ず上手くいく

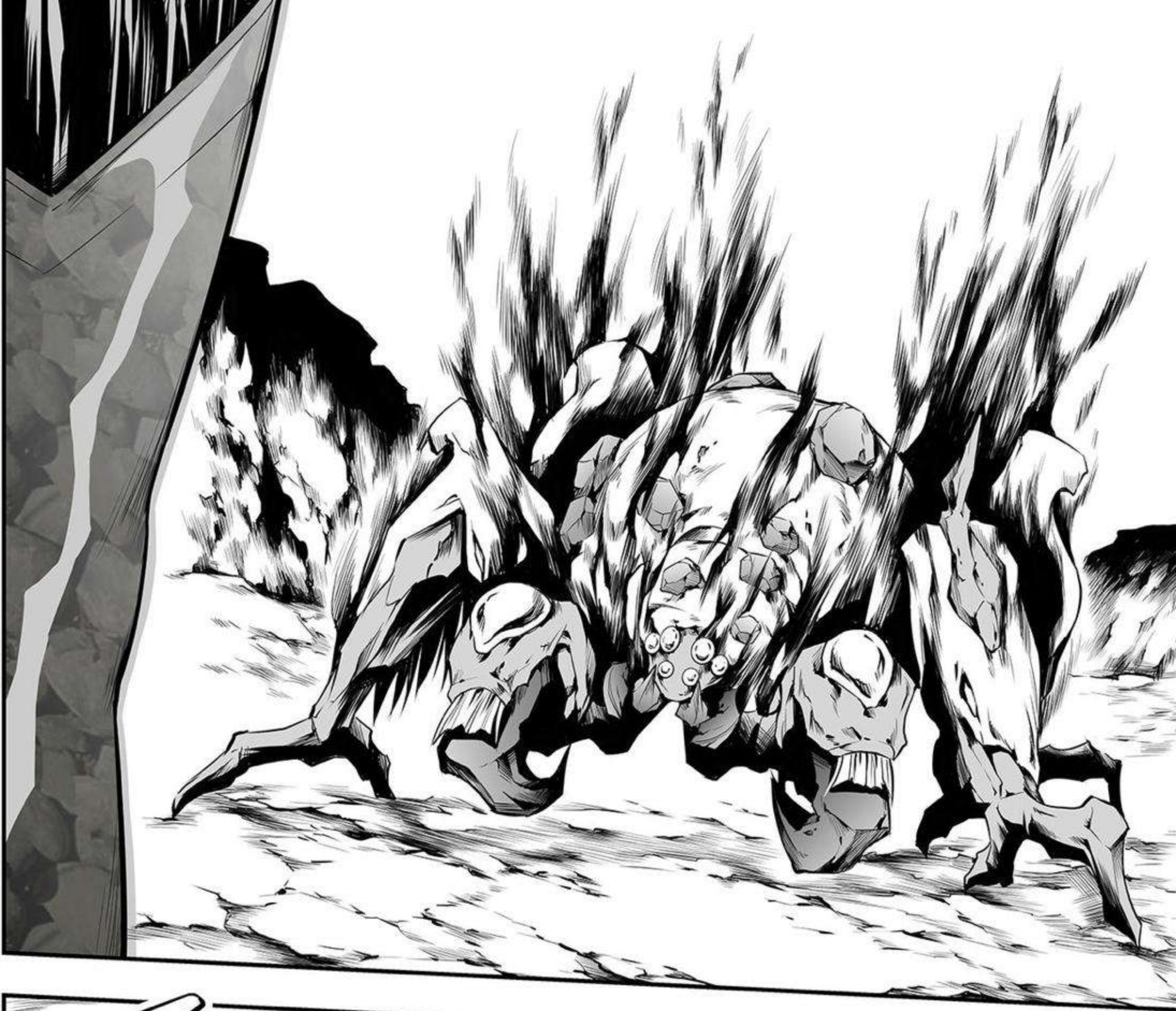
そう 私はずっと  
そうやって生きてきた



動体視力には自信がある  
反射神経にも自信がある



私の体はどんなに  
素早いモンスターにも  
順応出来るはずなんだ



by





ずいぶん小さいが  
おそらく骸蜘蛛だ  
原種なら狩った事がある



しかし：コレはまるで別物だ  
亜種とは言え ここまで速く  
凶暴な個体は明らかに異常だ



名前を付けるとしたら  
【獰猛骸蜘蛛】ってところだな

とは言え 大分体が慣れてきた  
コイツは速さの割に攻撃が単調だ  
スピードに惑わされずに冷静に  
対処すれば十分戦える









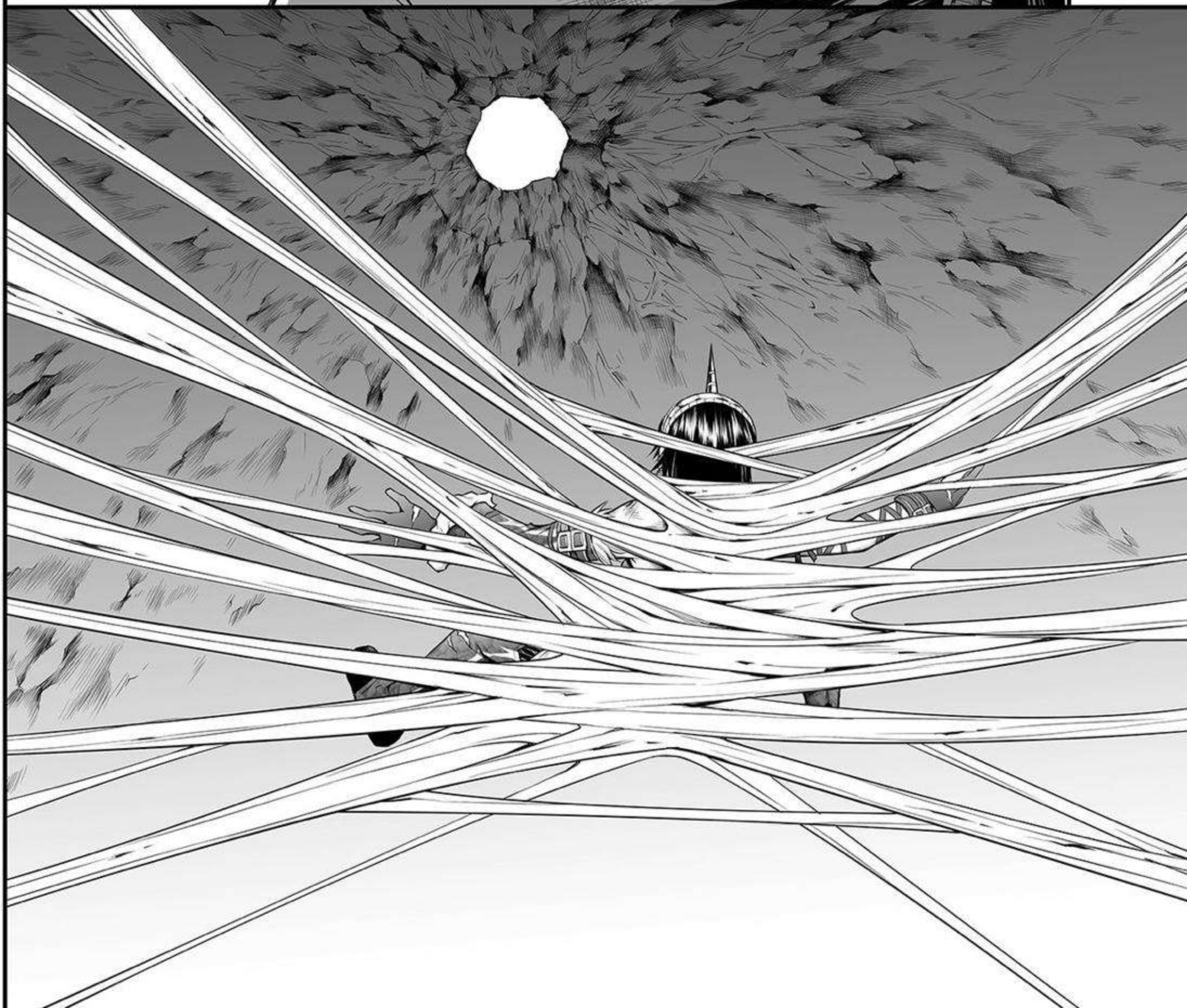
非常に厄介よね  
でもね 本当に厄介なのは  
亜種がそれをやる時

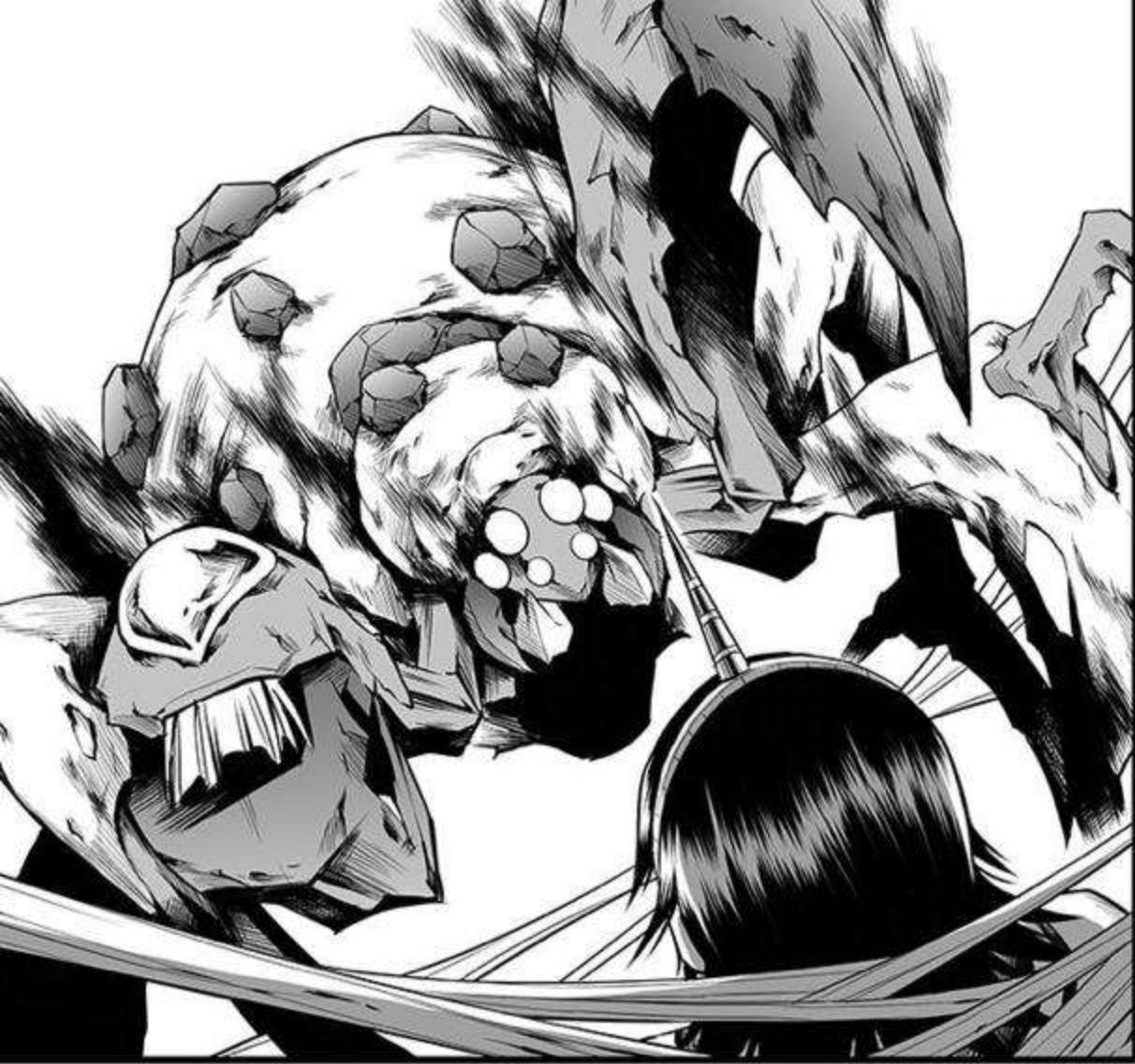
亜種は原種のように  
目立つ糸の張り方はしないわ  
砂や土の中に巣を作るの  
だから注意深く観察しないと  
分からないわ

幸い巣に追い込もうとする  
動きは単調だわ  
注意深くモンスター動きを  
観察していれば気付けるはずよ

フム

……ん







なぜ抵抗出来ない獲物を  
痛めつける？

いっしょ

がっ

食うために捕らえたわけじゃ  
ないのか？

がああ

何なんだ？  
この骸蜘蛛は一体……











あの人が居てくれたら  
きっとこんな事には……

フッ

フッ

フッ

んっ♡

フッ

フッ

んっ♡

んっ♡

ゲウウ

ゲウウ

ゲウウ

ゲウウ

ブチュ

ブチュ

フッ

フッ

フッ

ンフッ

ウウウ

ウウウ

ンフッ









あれ……私……  
どうしたんだっけ……

確か……骸蜘蛛と……  
……戦って……それで……

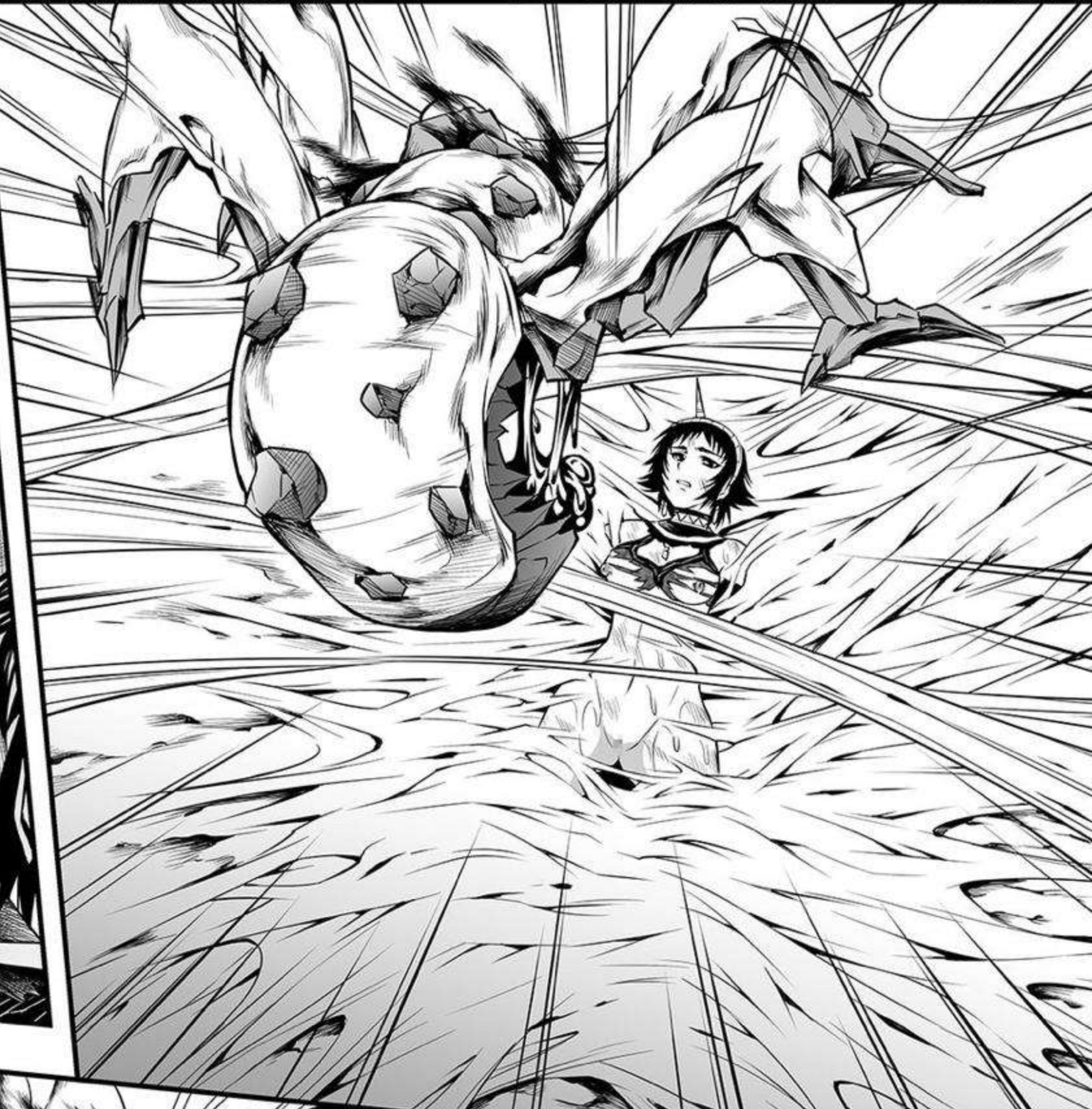


ウツウツ

ウツウツ



……っ!?



手足が拘束されている  
これじゃ動けない

落ち着け  
パニックになるな  
冷静に考えるんだ

そもそもコイツは  
なぜ私を食わない?  
獲物を捕らえておいて  
痛めつけるだけなんて  
どんな意味がある?





見たところ まだ成体になり  
きっていない個体だ  
人間で言えば思春期の子供  
くらいの年齢だろう

……これは  
何をしている？

グチュ

グチュ

い…お!?

ツン♡

♡ツン



ポチュ



ツィ



なんだコレは……!!  
毒液!?糸に毒液を混ぜ込んで  
いるのか!?

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ



嗤っている……?

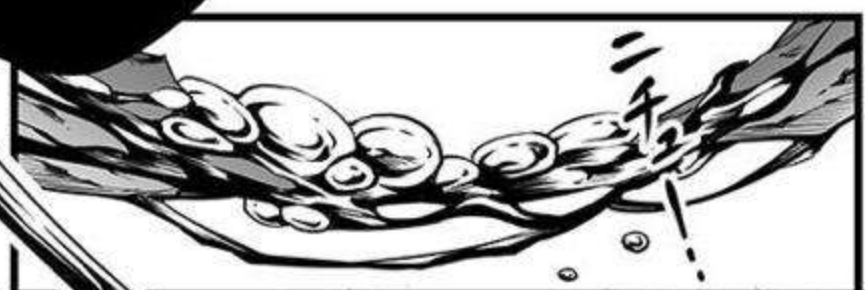
そうか…こいつ……



遊んでいるんだ



おそらくコイツは人間を見たことが無いだから初めて見る未知の獲物に興味を持っているんだ



幼い子供が蝶の羽を引きちぎるように

ぎっ!!

あぁあぁあ

ただただ感興の赴くままに遊ぶ

あぁあぁあ

プシッ!!



ぐぁあぁあぁ

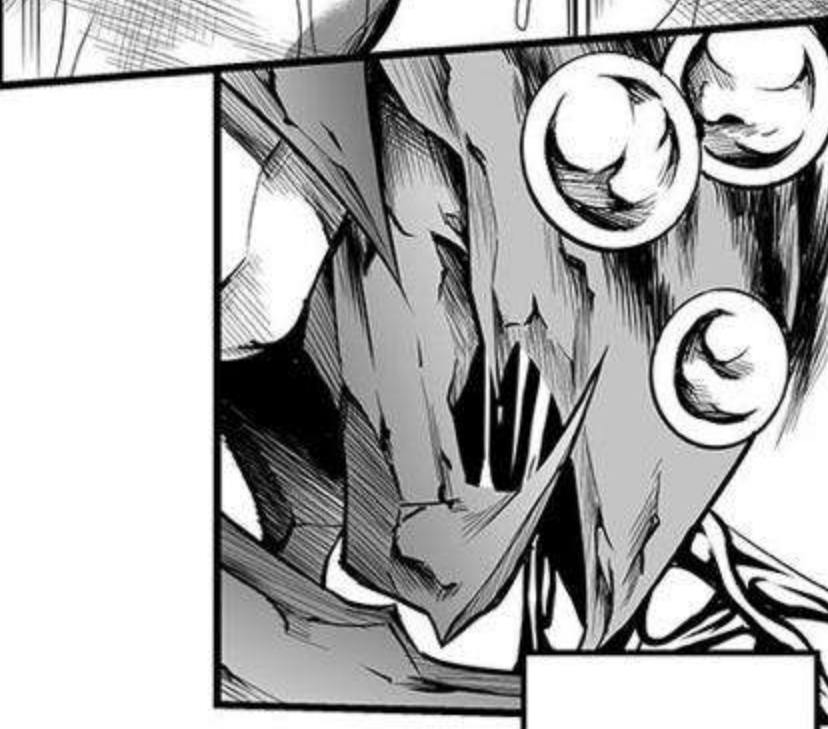
あぁあぁあぁ

ひびく

ああしたらどうなるだろう？  
こうしたらどうなるだろう？  
興味本位の実験を繰り返す

体を生きたまま解体されるかの  
ような耐え難い激痛

対象がもがけばもがくほど  
叫べば叫ぶほど 好奇心は  
満たされ 探究心は刺激される



肉体を蝕む毒素は体内に染み込み  
やがて脳へ達する



彼が飽きるまで暴虐は終わ  
らない 玩具にされた者が  
解放される方法はひとつ

生命活動の停止だけ

お…♡

あへ♡

脳内は異常な量の  
快樂物質で満たされ

彼女の意識は天国へ導かれる

おへ…♡

自慢の天性の身体能力も  
鍛え上げられたハンターとし  
ての強靱な肉体も全て無意味

あへ♡

♡♡♡  
♡♡♡

こうなってしまうえば  
壊されるのを待つだけの  
ただの玩具

蹂躞者に命運を握られる  
哀れな生贄

彼は次に玩具のどこに  
興味を持つのか



快感に波打つ  
引き締まった腹筋か



熱い吐息を漏らし続ける  
艶めかしい唇か

それとも奇妙な液体を  
漏らし続ける不可思議な  
器官か



ハッ♡

ハッ♡

ベチヨ





カッ  
カッ  
カッ

カッ  
カッ  
カッ

カッ  
カッ  
カッ

カッ  
カッ  
カッ

カッ♡  
カッ♡  
カッ♡

糸を巻き付けると  
玩具はビクビクと動いて  
体のあちこちから汁を吹き出す

玩具が反応すれば反応するほど  
未成熟な心は満たされた

ハッ♡

ハッ♡

初めて見る不可思議な生き物  
それは彼に蹂躞する喜びを教える

うぁ♡

あっ♡

ブッ♡

うぉぁぁぁ

クワクワクワ

先ほどまでの刺すような  
危険な気配は消えた  
今は彼のなすがままだ

ブッ♡

あっ♡

あぁ♡

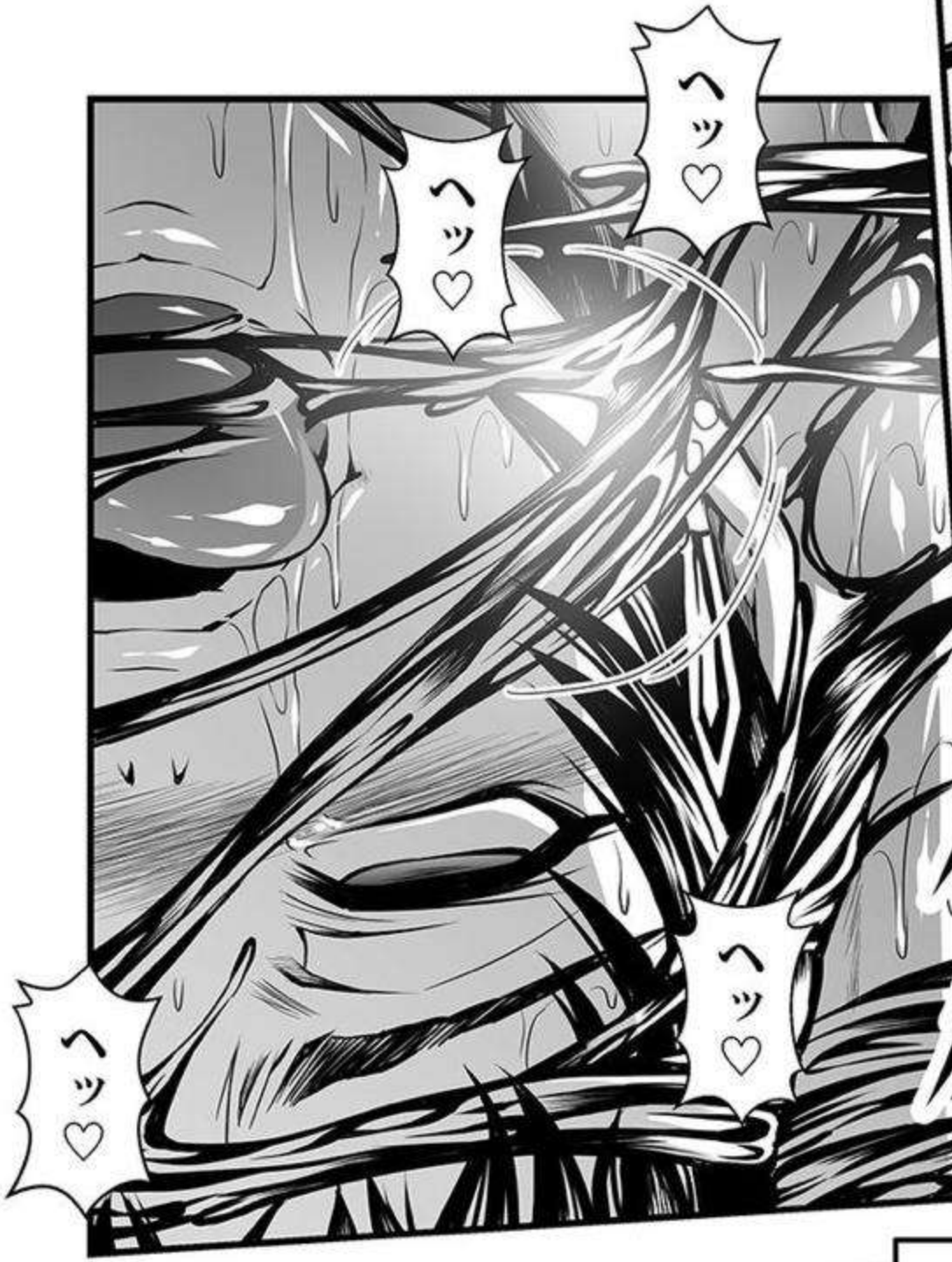
クワ

あっ♡

無垢で無知で凶暴な彼は学んでしまった  
この世には食うより満たされることも  
あるのだ

あびっ♡

もっとこの玩具を弱らせてやろう  
自らの無力さを思い知らせてやるのだ



ハッ♡

ハッ♡

もっこ

もっこ

もっこ

もっこ

あわわわ

あわわわ

あわわわ

あわわわ

あわわわ

あわわわ

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡



ブッ♡

ホカ

ホカ

ブッ♡

ホカ

ビク

フビ♡

ハッ♡

フビ♡

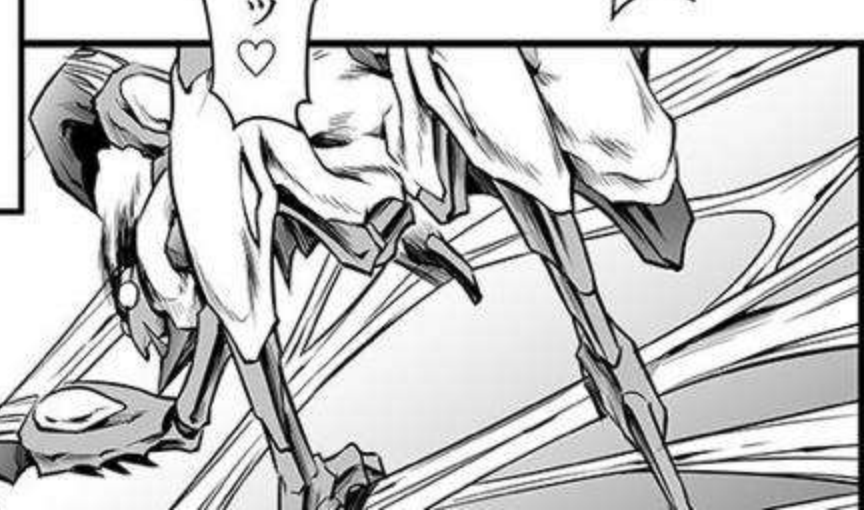
フビ♡

彼に人間の言葉など分からない  
それでもこの生物が彼に屈し  
彼に支配される事を悦んでいる  
その事実だけは感じる事が出来た



……いいお……♡  
いいのお……♡

ハッ♡



ハッ♡



おげっ♡

んっ♡

ブッブッ

愉悦に染まった獰猛骸蜘蛛の暴虐は  
更にエスカレートする



衝動のままに暴力をふるい

ごほお♡

げべえ♡

おげえ♡

ごほ♡

んっ♡

毒を何度も直接注入した

ガブツ

彼女にはもはや二つの運命しか残されていない

ジュブブブ

暴力で肉体が死ぬのが先か

ああ♡

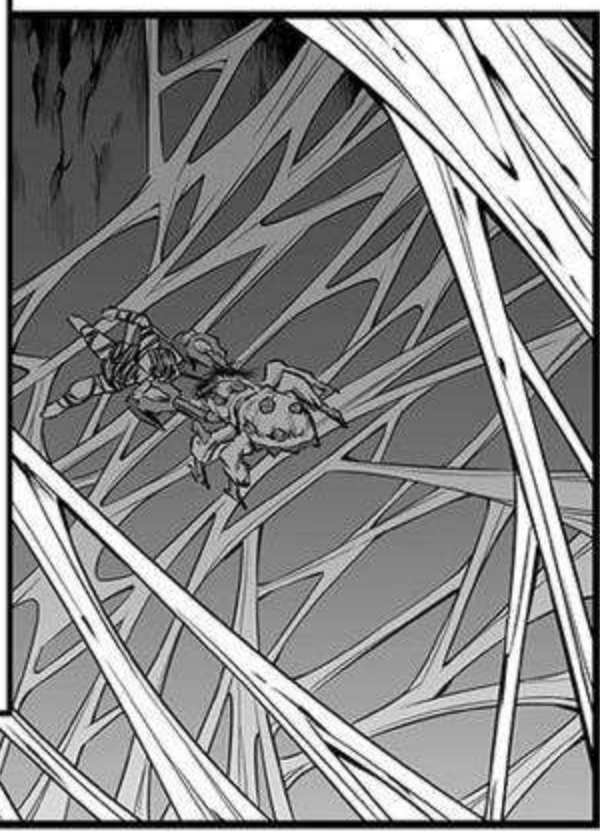
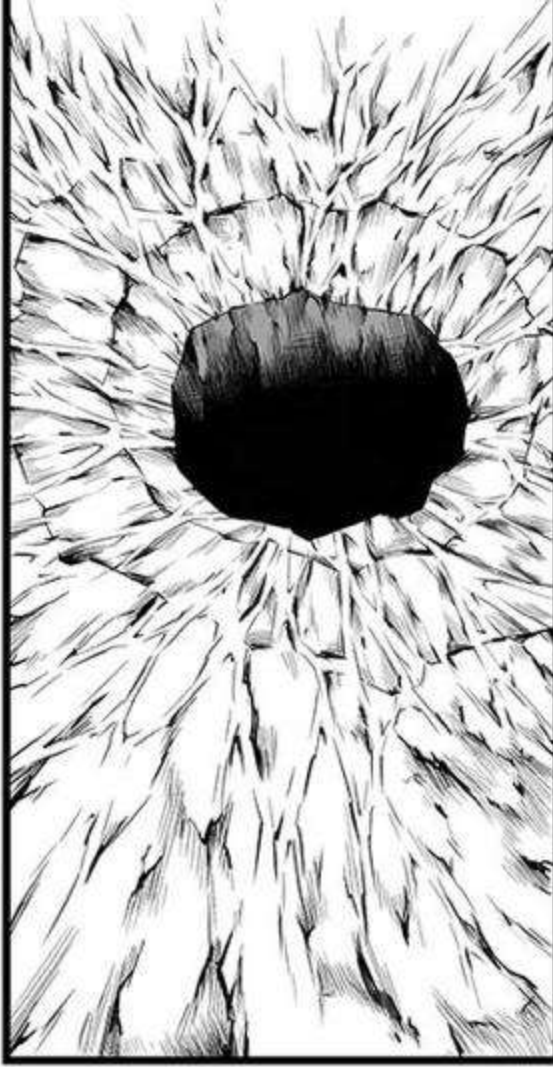
ああ♡

ああ♡

快感で精神がイキ死ぬのが先か

ああ♡

ああ♡



獲物の反応が鈍くなってきた頃  
凶暴な蹂躪者は弱り切った獲物に  
飽きてきた



最後に彼は獲物に噛みつき  
大量の毒を流し込んだ

ゴッ  
パッ





彼の玩具は動かなくなった

こうなればもう不必要な物だ  
汚らしくて食う気にもならない  
それよりも新しい玩具を探しに行こう  
きっとこれより良い物が見つかる





かつてハンターだったソレは  
生ゴミとしてうち捨てられた

女の生死は分からない 脱力した肉体は  
人外の快楽に耐えきれずに漏らし続けた  
無様な体液に彩られ 官能的な激臭を  
漂わせていた

# ペアハンターの生態 vol.2-2



発行 YokohamaJunky

発行者 魔狩十織

web <http://yokohamajunky.com/>

email [mail@yokohamajunky.com](mailto:mail@yokohamajunky.com)

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及び骸蜘蛛の設定とか一切関係ありません  
尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です

# ペアハンターの生態

## Vol.2-2



彼は狩りをした

こんなに小さな獲物なのに捕獲は容易ではなかった  
初めて見るその獲物は素早く頑丈だった、だから興味をひかれた

この獲物はどれだけ頑丈なんだろう？

どれほどの打撃に耐えるのだろうか？

毒素に耐性はあるのだろうか？

彼は思いつくままに実験を繰り返したが、獲物は何をしても壊れなかった  
彼の行為はエスカレートし、彼の心は沸き上がる黒い愉悅に囚われていった

獲物を蹂躪する事がこれほど楽しいとは知らなかった

彼の暴虐は獲物が完全に動かなくなるまで続けられた

四本の足と六つの目を持つ彼にはその獲物が何なのか理解する事は出来ない

その獲物はハンターを生業とする人間の女なのだ



※本書は18禁です、18歳未満の閲覧は禁止です。

Yokohama Junky